

平成 24 年度採択 申請区分 I ⑤ 神戸大学（大阪大学）

「ASEAN 諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成」

●相手大学・機関

インドネシア大学（インドネシア）、ガジャマダ大学（インドネシア）、アイルランガ大学（インドネシア）、マヒドン大学（タイ）、チェンマイ大学（タイ）、中国医科大学（中国）、チッタゴン医科大学（バングラディッシュ）

●主な活動内容（概要）

本プログラムは、神戸大学、大阪大学、インドネシア大学、ガジャマダ大学、アイルランガ大学、マヒドン大学、チェンマイ大学、WHO 健康開発総合研究センター（WHO 神戸センター）、兵庫県立健康生活科学研究所（Hyogo-IPHES）がコンソーシアムを構成しており、神戸大学がインドネシア拠点及び大阪大学がタイ拠点を有している。上記の拠点上で、日本の大学院生を対象とした海外相手大学でのセミナー、日本・ASEAN 諸国の学生を対象とした学部課程における 4 週間の病院実習、修士課程及び博士課程における 3 か月または 6 か月間の研究プログラム、さらに ASEAN 諸国学生を対象とした博士課程の学位取得プログラム等の多様な取り組みを展開している。

●プログラムの現状・課題、成功事例

（単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等）

現状・課題

本プログラムは本年度で 3 年目を迎え、交流学生数は年々増加している。また、学生交流をおこなう大学も年々増加している。そのため、本プログラムは当初の計画を上回るペースで学生交流が順調に推移しているといえる。ただ、派遣・受入をおこなう学生数の増加に伴い、下記の通りの課題が生じている。

学生支援資金の不足：

支援する学生数が増加することで、学生支援資金の不足が問題となっている。そこで、宿舍の借上費用を抑えるためシェアハウスの利用や、大学関係者・学生家族からホストファミリーを募り、ホームステイの実施を計画している。また、他の資金源による奨学金制度の拡張・整備・充実させるとともに、私費派遣学生の増加を促す活動もおこなっている。

留学生宿泊施設の確保：

神戸大学の寮への本プログラムによる留学生の受入ができないため、民間施設を使わざるを得ないが、上記の支援金の不足等も伴い、快適な住環境とはいえないシェアハウスなどを使用している。一方、日本人学生は海外大学の寮を利用することが多いが、寮から実習病院への通学手段やエアコン・衛生状況などの問題がある。

受入学生の実習先の確保：

当初の見込みを超える受入学生数の増加により、受入実習先の臨床科の確保も課題とな

っている。そのため、事前に受入先分野との協議による年間受入予定表の作製や、派遣元大学と受入をおこなう学生数や派遣日程に関する協議をおこなうことで、同時に受入をおこなう学生数に無理が生じないようにしている。

成功事例

大学間学生交流の活性化・拡大：

ガジャマダ大学医学部から、博士課程におけるダブルディグリープログラム実施の提案受け、ダブルディグリープログラムの構築に向けて協議を進めている。また、マヒドン大学からも同様の提案があるので、ダブルディグリープログラム実施に向けた検討・協議をおこなっている。また、平成 26 年度より Elective Program のホームページの開設による海外大学からの病院実習による学生の受入や、他の教育プログラムとの共同による学生派遣・受入をおこなうことにより、コンソーシアム以外の大学との学生交流も開始し、本プログラムのさらなる活性化・拡大に努めている。さらに、海外からの臨床実習申し込みをきっかけに交流協定・細則などの締結を提案し、交流校の増加を図っている。

学生間交流の活性化：

派遣されてくる留学生に対して、来日中の学業や日常生活の世話をするチューターとして、学生を雇用した。留学生とチューターは来日前から LINE など連絡を取り合うようにさせ、学生が主体となった留学生の援助をおこなっている。また同様に、既に受入を行ない派遣元の大学へ帰国した学生が、日本人派遣学生の世話をするシステムもできつつある。これらの取組により、学生間交流の活性化が進んでおり、プログラム参加学生を中心とした、各大学の学生間による自発的な相互支援関係が構築されつつある。

プログラム参加学生へのキャリア形成支援：

平成 24 年度に 3 か月間の研究プログラムでインドネシア大学へ派遣した学生が、平成 26 年度より本プログラムの運営に関わる神戸大学職員として採用されている。また、受入学生については、留学期間中に博士課程への進学に興味を示した学生と研究希望分野の教員との面談の機会を設け、神戸大学の博士課程への入学を促している。さらに、留学生に国費留学生制度や他の奨学金制度の情報提供もおこない、より多くの学生が留学希望を持つように図っている。平成 24 年度に 4 週間の病院実習プログラムに参加した学生が平成 27 年度 10 月より、神戸大学の博士課程へ入学予定となっている。

●学生交流数

	平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
受 入	—	—	3 名	3 名	18 名	23 名	18 名	38 名
派 遣	—	—	8 名	11 名	21 名	24 名	22 名	25 名

(※) 予定含む